

臨床研修推進研修会を受講して

高崎総合医療センター 関口 匠

「臨床研究って難しそうだな」漠然とそう思っていたある日、自分が担当しているNSTの医師より研究のお誘いがありました。そこで初めて臨床研究にかかわることになりました。しかし当時の私は臨床研究に関して何も知識がないような状態でした。多くの方の力を借りてなんとか発表までたどりつくことができました。この経験は私に臨床研究の楽しさを教えてくれました。しかし、この時の私は臨床研究の進め方どころか論文の読み方の作法すらよくわかっていないような状況でした。そんな時にこの研修会の存在を知り、参加を申し込みました。

受講生は9名、受講生1名に対してチューターの先生が1名担当してくださいました。研修会は全4回で現地開催のほかに、今年はいませんでした。オンラインでの受講も可能となっていました。

第1回、第2回、第4回の研修会では講師の先生からの講義がありました。第1回では九州大学大学院の川尻雄大先生より「クリニカルクエスチョンからの文献検索」、東京医療センターの上田真也先生より「クリニカルクエスチョンからリサーチクエスチョンへ」、国際医療研究センターの小林瑞季先生より「研究デザインについて」の講義をしていただき、研究に関する大前提を学びました。第2回は第一三共株式会社の藤本万理恵先生より「医療統計オーバービュー ～専門用語から統計手法まで～」、千葉医療センターの齊藤達也先生より「臨床研究を実施するにあたって」の倫理の講義、埼玉病院の赤木祐貴先生より「論文の批判的吟味」の講義をしていただき、研究を

進めるにあたって必要な内容を学びました。第4回は成果発表会の後に三重中央医療センターの鈴木亮平先生より「日常業務から臨床研究へ発展させよう～私の成功体験と失敗談を踏まえて～」の講義を受け、日常業務と臨床研究のつながりについて、より解像度を上げることができました。

もう一つの内容は研修全体を通して自身の設定した研究テーマについて研究計画を立てていくものでした。第1回～第3回の研修会ではグループごとにディスカッションを行い、全体の研修会のない間もオンラインでグループディスカッションを行ったり、メールで進捗状況を確認していただいたりしながら研究計画を立てていきました。第4回の研修会で成果発表会というかたちで1年かけて作成してきた研究計画を発表しました。

私は自身が担当している、NSTに関するテーマとして「ビーフリード[®]輸液と脂肪乳剤併用は末梢静脈炎を予防するか」というテーマで研究計画を立てました。研究計画を立てていく中でも文献検索や研究デザインの設定などたくさんの苦労がありました。

研究計画を進めていくうえで締め切りに追われ、確かに大変な研修ではありました。そのような中で大きかったのがほかの受講生の存在です。ともに高めあう仲間がいたからこそ最後までしっかりと受講できたのだと感じています。そして容易ではなかった研修だったからこそしっかりと自分の中に残り、実力がつく研修だったと感じています。本研修で作成してきた研究計画をもとに実際の研究へつなげられるようにしていきたいと思

います。

最後にお忙しい中、優しく丁寧にここまで導いてくださったプライマリーチューターの村山医療

センターの大越千紘先生をはじめ、ご指導くださった講師の先生方、企画いただいた教育研修部の先生方へ心よりお礼を申し上げます。